

3月5日（水）啓蟄

3月になると、土^{つち}の中^{なか}で冬^{ふゆ}ごもりしていた虫^{むし}たちが地上^{ちじょう}に出てくる^でころです。一年を24^わつに分^{わけ}けると、「啓蟄^{けいちつ}」といわれる時期^{じき}になりました。暖^{あたた}かい地域^{ちいき}ではチョウやアリを見^みかけるようになります。



日^ひ差^ざしがだんだん強^{つよ}くなり、土^{つち}の中^{なか}が暖^{あたた}かくなって、冬眠^{とうみん}している虫^{むし}たちは春^{はる}が来^きたことを感^{かん}じて地上^{ちじょう}に出^でてきます。寒^{さむ}さに震^{ふる}えていた時期^{じき}が長^{なが}いほど、暖^{あたた}かくなると外^{そと}に出^でたくなるのは、人間^{にんげん}も同^{おな}じですよ。

また、春^{はる}の雷^{かみなり}が、虫^{むし}たちを目覚め^{めざ}させるとも言^いわれています。このころの雷^{かみなり}は「虫出^{むしだ}しの雷^{かみなり}」と呼ば^よれます。

子供^{こども}の頃^{ころ}を思^{おも}い出^だします。寒^{さむ}い日^ひは布団^{ふとん}から出^でたくなくて、目^めが覚^さめても、布団^{ふとん}の中^{なか}からなかなか出^でませんでした。すると、お母^{かあ}さんから「早^{はや}く起^おきなさい！」と大^{おお}きな声^{こえ}で起^おこされたものです。「雷^{かみなり}みたいだ」なんて、思^{おも}ってしまったことを、思^{おも}い出^だします。

雷^{かみなり}が鳴^なったら、虫^{むし}たちが起^おこされて地上^{ちじょう}に出^でてきます。ぜひ、観^{かん}察^{さつ}して下^{くだ}さい。